

HISTORY

味の素グループの成長の軌跡

味の素グループは、1909年の創業以来、様々な困難を乗り越えながら開拓者精神、顧客価値起点のイノベーション、パートナーとの共創、ガバナンスや品質保証(安全・安心)の取り組み、構造改革によって成長してきました。

1908年

グルタミン酸発見・
翌年、味の素®発表

イノベーション

共創



1910年代

グローバル進出
(台湾・韓国・中国へ販路拡大)

開拓者精神

共創

1964年

米国コーンプロダクツ社との
提携により「クノール®」スープ発売(日本)

共創



1969年

米国でMSGの
安全性につき問題提起

⇒当社は安全性の科学的実証に注力し、
1980年に安全性が再確認される。

品質

1956年

競合によるグルタミン酸の
新製造方法発表

⇒当社も中央研究所を新設し発酵法の
工業化に成功。同年、輸液用アミノ酸発売

共創

イノベーション

1950~60年代

海外拠点の拡充
(タイ、ブラジル、米国等)

開拓者精神



1972年

冷凍食品事業の
本格展開開始

開拓者精神

イノベーション



1973年

米ゼネラルフーズ社との
提携により
インスタントコーヒーの発売

共創



1909 1950

1960

1970

1980



- 開拓者精神 ⇒ 挑戦し続ける開拓者精神
- イノベーション ⇒ 顧客価値起点のイノベーション
- 共創 ⇒ パートナーとの共創
- ガバナンス ⇒ ガバナンス強化
- 品質 ⇒ 品質保証 (安全・安心)
- 構造改革 ⇒ 持続的成長に向けた構造改革

1989年
オムニケム社を買収し
CDMO事業に本格参入

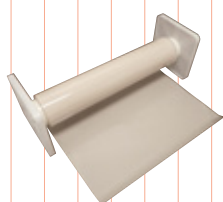
イノベーション

共創

1997年
商法違反事件
(総会屋への利益供与) 発生

⇒ 日本発の世界企業を目指し
ガバナンス強化

ガバナンス



1999年
半導体基板用層間絶縁材料
味の素ビルドアップフィルム®
(ABF) 発売

イノベーション

共創

2001年
インドネシアでの
ハラル問題発生

⇒ 品質保証の取り組みを一層強化

品質

2009年
リーマンショックの
影響もあり減収減益、
100億円を超える赤字

⇒ 構造改革、バルク偏重から付加
価値製品への転換

構造改革

2019~2022年
約3,000億円
規模の
アセットライト

構造改革

2014年
米国冷凍食品
Windsor Quality
Holdings社買収

開拓者精神

共創

2023年
米国遺伝子治療薬
CDMO Forge
Biologics社買収

イノベーション

共創

売上高

1兆5,305億円

1990

2000

2010

2020 2024